様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年 １０ 月 １２ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2015
課題番号：２６５８００１３

研究課題名（和文）京都学派の思想史における史料学的アプローチ

研究課題名（英文）Historical investigation on the Kyoto School of Philosophy

研究代表者
林　晋（Hayashi, Susumu）

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：４０１５６４４３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：西田幾多郎、田辺元を中心とする、京都学派の思想家たちの史料を紹介し、また、それにより「埋もれている」京都学派の史料を掘り出すための「京都学派アーカイブ、新バーション」を作成し、そのコンテンツ作成のための調査・研究を行った。
　また、西田幾多郎が大正元年から11年まで住んだ左京区田中上柳町町の旧宅の一部保存と、調査、記録、特に、360度パノラマ写真による建物内部全体の記録を行った。この旧宅は解体される。一部保存は将来の展示のためである。

研究成果の概要（英文）：The next version of Kyoto School Archive, which aims to present information on Kyoto School of Philosophy to public and then to correct further information, was built, and some content for the archive was collected.
 We surveyed a house where Kitaro Nishida the founder of the school once lived, and made indoor maps for Google indoor view and yet another panorama view. The house is under demolition, and we have saved a part of the house for future exhibitions.

研究分野：思想史

キーワード：京都学派　史料研究

１．研究開始当初の背景

京都学派史料の学術的悉皆調査と公開は、意外なことに、岩波書店による全集が著名な西田の場合でさえ、今まで一度としてなされたことがない。これは西欧の著名哲学者の史料、たとえば、ベルギーの司祭の献身的努力によりナチズムの脅威から救われたフッサール史料と比べ著しい対比を成す。我が国は、未だ、その近代の知的文化遺産の保存と継承への情熱と方法に欠けるのである。本研究は史料学的実践を通し、この状況を変えることを目標として計画された。つまり、本研究の最終的目標は「我が国における、近代の知的文化遺産の保存と継承への情熱をプロモートする」ことであった。もちろん、この様な大きな文化的変化を一科研費研究で一挙に行うことは不可能である。本研究は、この状況を継続的に改善していく手段と方法の構築の第一歩を踏み出すことにあった。

２．研究の目的

本研究の研究開始当初の目的は、西田幾多郎・田辺元を中心として形成された京都学派に関する史料の悉皆調査を継続的・組織的に行い記録・収集し、さらにその成果を国の内外に発信する仕組みを作ることであった。

そのために立てた具体的な研究目的としては、次の二つを実施することであった：

(i) 京都学派が残した史料の悉皆調査、

(ii) 悉皆調査により得られた情報のＷＥＢデータベース化と公開。

そして、(i)の悉皆調査の最大のターゲットは、田辺元の往信の収集とした。来信は、京大文が所蔵する下村文書に含まれているので、その発信者の子孫などに田辺の書簡の有無を尋ねるという、岩波書店西田幾多郎全集の編集の際に、岩波書店の編集者によりとられた方法を採用する計画だった。

一方で、(ii) は、収集したデータを WEB データベース化し、また、crowd sourcing の手法で英訳して海外への情報発信を行うことを目指した。

３．研究の方法

以上の様な背景と目的をもって研究を開始したが、研究期間に三つの重要な出来事が起こり、その方針を大きく変更した。その三つの出来事と、それによる方針の変更を以下にしめす。

まず、第一の出来事を説明する。２の(i)の悉皆調査の方法は、西田幾多郎全集の編集を行った岩波書店の編集者より聞いた方法であったが、研究を始めた後に、その編集者に再度詳しい方法を聞くためにインタビューを行った。その結果、同氏が芥川龍之介全集の編集に携わった時の経験から、今回の調査の場合は、個人ではなく、地方の文書館、図書館などをターゲットにした方が良いという示唆を得た。このため、日本の総ての図書館、史料館などをリストアップし、京都学派の史料の保有の有無と、その内容を問合せるアンケートを送るという方向に方針を変えた。そして、その準備を行っていた間に、第二の出来事が起きた。

第二の出来事は、谷川徹三資料を保管している愛知県常滑市の「谷川徹三を勉強する会」から、田辺から谷川宛の書簡の翻刻を纏めた冊子が送られて来たことである。その品質は極めて高く、また量も多かった。それは修士論文位ならば、殆どそのままで通用するほどであった。これに驚き、同会と、やはり谷川関係の史料を保有する常滑市図書館を訪問、調査した。その結果、同会が谷川の御子息で詩人の俊太郎氏を通して、岩波書店が保有している段ボール箱１０数箱の谷川史料を岩波書店から借出し、田辺元だけでなく、他の多くの人物との間の書簡を翻刻していること、また、その他の貴重な谷川の自筆史料を分析・翻刻し、その結果を多数の冊子として自費で作製していることが分かった。その品質は非常に高く、また、量も多かった。

この「谷川徹三を勉強する会」の史料と、その研究結果は、当初計画していた WEB データベースに記録するのは全く不可能であった。計画していた WEB データベースは、個人、文書館、図書館などに所有の史料は、生史料が中心で、それを所有者が研究者の様に研究調査しているという状況は、まったく想定していなかった。そのために、史料名、所有者、簡単な内容などの、いわゆるメタデータだけを収集、記録、公開すれば十分であろう。それを見た、個別の研究者が史料の所有者にアクセスし（所有者へのアクセスも提供する予定だった）、そこから研究が始まるというモデルを立てていたため、メタデータを記録・公開するに適当な WEB データベースを用いるという計画をたてていた。これはターゲットが個人から文書館・図書館に変わっても同じ方法で行えるだろうと考えていた。

しかし、「谷川徹三を勉強する会」の活動は、このモデルに全く合致せず、純然たる個人の集団、ボランティアグループが、貴重な第一次史料を大量に保有し、しかも、それを研究者なみの品質と量で調査・研究、さらには出版まで行っていたのである。

この事例を契機として、同様の活動が各地方にある可能性を考え、調査してみると三木清などに関連して、そういうものがあることが分かった。また、文書館や図書館に置いて、学芸員などの努力により、同じような成果が得られているケースがあることが分かって来た。

そのため、方針を大きく変え、データベースではなく、もっと自由な形式で、これらのボランティア団体、図書館、文書館における保存と調査・研究の活動を、それに携わる人々とともに紹介する WEB サイトを作り、この様な貴重な自主的活動の紹介を通して、本

研究の最終目標である「我が国における、近代の知的文化遺産の保存と継承への情熱をプロモートする」、つまり、これら既に存在する「情熱」をロールモデルとして WEB サイトにより紹介するという新たな方向を立てた。

そして、その WEB サイトとしては、既に数年の運営実績があり、「京都学派」をキーワードに検索すると、1, 2 位の順位に表示される、京都学派アーカイブを改造して用いることにした。西田幾多郎、田辺元のみを対象としている現在のアーカイブを、全く新しく作り直し（ただし、現在のコンテンツは、その一部として完全に再利用される）、多くの京都学派の思想家に対象を広げ、さらには、谷川の会などを紹介するための「史料を訪ねて」というコーナーを新設して、そこにおいて上記の様な「情熱」をロールモデルとして紹介することにした。また、それを見て、自分や自分たちも紹介して欲しいという連絡をしやすくする投稿フォームをもった新バージョンの京都学派アーカイブを専門会社に発注して製作した。

また、この方針転換後、林は、そのコンテンツであるロールモデルを求めて、各地の文書館・史料館を訪問して、関連所蔵史料、特に西田幾多郎関係の史料の保存の仕事をしている人たちを取材した。上に説明したとおり、これは保存する人を紹介することにより、自分も保存に携わっているので紹介して欲しいという情報提供を引き出すことを想定していたので、史料そのものの撮影よりは、史料保存に携わる人々にインタビューし、その写真や成果物の写真などを主に収集した。その具体的なリストは、次の「研究成果」で述べる。

この様な活動を行っていた間に、第三の出来事が起きた。それは、西田幾多郎が、後期哲学の形成期、および、京都学派の形成期に、住んだ家が取り壊されることになったので、その一部を保存できないか、その家屋の所有者の子息から相談があったことである。調べてみると、これは西田の生涯の時期という意味では、極めて重要な家屋であり、また、既に忘れ去られようとしている数々のエピソードに豊富な歴史的建物であることが分かった。上に述べたロールモデルの紹介は、谷川の会のように、アマチュアでありながら高い歴史資料への情熱を持つ人たち、また、図書館、史料館などの学芸員・研究員などのプロにアピールするものであったが、この家については、エピソードが非常に多いため、また、西田幾多郎の一般での知名度の高さから、研究開始以前に想定していた、準善たるアマチュアの層への訴求力が高いと考えた。また、これの保全に関わり、そのプロセスを記録・公開すれば、自分自身がひとつのロールモデルを提供できることにも気が付いた。

そのため、「史料をたずねて」の「史料」を当初の「紙の資料」から、拡大解釈して、建物と、それにまつわるエピソードにまで広げて、この家の保存と調査に、本研究の一部として自ら関わることとした。

しかし、林は建物については全くの素人であるため、単独で行うことは不可能であると判断し、建築史の専門家の助けを借りることになった。具体的には、石川県西田幾多郎記念哲学館からの紹介で、西田関連の建物の保存に関わっている福井工業大学市川教授などの支援を得て、この家屋の調査とその一部保存を行った。

４．研究成果

僅か２年の研究期間であったが、その間に、方針を何度も変えながら、非常に高い成果を上げることができたと考えている。成果は主に二つであり、第一に、京都学派アーカイブの西田、田辺から、その他の、２０名ほどの哲学者への拡張の枠組みの作成と、その内の何人かの史料の調査とコンテンツ作成である。前者は、京都学派アーカイブのデザイン変更であり、これは研究期間内に完成した。後者は、調査としては、西田幾多郎（学習院、京大、石川県西田幾多郎哲学館）、中井正一（京大文書館、竹原市図書館）、谷川徹三（すでに述べた通り）などである。これらのコンテンツは、未だ発表していないが、次の述べる西田旧宅の研究成果とともに、できるだけ早く、新版京都学派アーカイブとして、公開する予定である。次が、そのトップページのスナップショットである。

第二の成果は、既に述べた西田旧宅の保存プロジェクトである。同旧宅は 2016 年 6 月 8 日に解体されたが、これは報道機関の強い関心を引き、全国紙、地方紙、TV ニューズなどで写真や図版入りで、同旧宅そのもの、解体の様子を含む保存活動、また、保存プロジェクト中に、西田幾多郎記念哲学館の要請を受けて行った調査により、所在が判明した第三高等学校図書館への西田寄贈本の「再確認見」などが、大きく報道された。この報道の大きさは、全くの予想外であったが、報道関係者とのやり取りの中で、また、報道後の多くの方たちからの反応により、本研究の取り組みとしての、研究活動の成果、あるいは、研究のプロセスが、それを見た新聞記者の方

たちの中に、歴史資料への情熱を生み出し、あるいは、強化し得て、さらには、それがマスコミ報道として、微力ではあるが、日本社会の歴史への情熱をプロモートし得たると感じることができた。その意味で、本研究の最初の目的が、これにより、一定の成功を得たと感じている。

この研究成果は、マスコミ報道以外の一般者かい向けの公開・展示としては、とりあえず、林のサイトに暫定的な頁として掲載しており、近い将来、新版京都学派アーカイブの「史料を訪ねて」のコーナーに移動する予定である。次の画像は、その暫定ページのスナップショットで、最上部の写真が、「研究の方法」で述べた 360 度パノラマ写真、下の方が市川教授のチームが実施中の一部保存作業の情景である。

ただし、この写真中の 360 度パノラマなどは、研究終了後に、林の大学での研究費などにより作成されている。（その他の 2 点は、林の撮影。）しかし、下の写真 2 枚に写っている市川教授のチームの活動を呼び起こした、市川教授の、招請などは、本研究の費用を使って行われている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計１件）

林晋：西田・田辺・西谷の「論理」、西田哲学会、第 13 回年次大会、2015.7.26

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕

京都学派アーカイブ新バージョン作成中
http://kyoto-gakuha.info/newarchive/index.html

西田幾多郎田中上柳町旧宅の WEB ページ
http://www.shayashi.jp/nishidakitarouky utaku/

６．研究組織

(1)研究代表者

林晋　（HAYASHI, Susumu），
京都大学,文学研究科,教授
研究者番号：40156443

(2)研究分担者

福谷茂　（FUKUTANI, Shigeru),
京都大学,文学研究科,教授
研究者番号：30144306

上原麻有子（UEHARA, Mayuko),
京都大学,文学研究科,教授
研究者番号：40465373

(3)連携研究者

藤田正勝（FUJITA, Masakatu),
京都大学,総合生存学館,教授
研究者番号：90165390